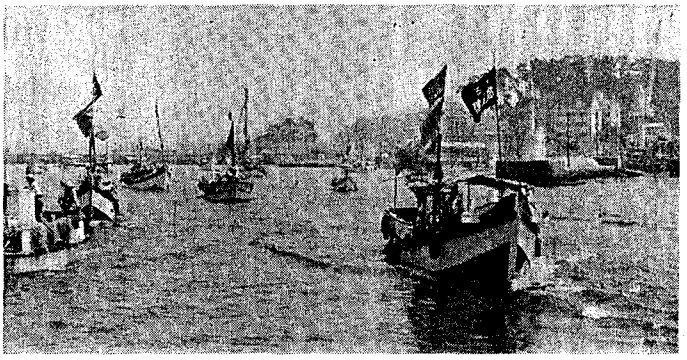
拓水

8月号
No. 239

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産業改良普及協会
〒652
神戸市庫区兵中ノ島2の2の1
発行人　兵庫県漁業協同組合連合会
会長理事　山田岸松
TEL　681－6954～7
一部　10円

第2回豊漁祈願祭盛大に行われる

県漁連



豊漁旗をなびかせ放流に向う漁船

安心して漁業の営める豊かな漁場に

我が国遠洋漁業がかってない困難な局面を迎えてる情勢の中で沿岸漁業を見直そうと国・県とも強力な沿岸漁業振興施策が打ちだされている。このような背景のなかで、この祈願祭は漁業操業の安全と水産資源の保護涵養の思想、啓蒙普及を図り安心して漁業の営なめる豊かな漁場にとまた将来、兵庫県漁民デーを設定し漁業に従事する者が心を一つにして記念日を祝いたいという考えのもとに実施されている。

県漁連主催・県協賛による豊漁祈願祭が8月12日十二時より津名郡淡路町岩屋で盛大に開かれた。県漁連山田会長、坂井県知事をはじめ国・県・市・町の水産関係者、各系統団体、漁協婦人部、青壮年部の代表、市場仲買関係者ら150余名出席し、正午より石屋神社の神主による神事が行われたあと「豊漁」の、のぼりを立てた漁船約50隻の見まもる中で水産課「はやたか」県水試「白鳥」を中心として放流船より大ダイ、タイ稚魚、ハマチ、ツバス、タコ等約三万尾が真夏の海にいっせいに放魚され全員が豊漁を祈願した。

漁民デー（県下一斉休漁日）の設定について述べる酒部副会長

三漁連合併認可申請終る

「9月発足へあと一歩」

我々兵庫県の水産関係者にとって永年にわたる念願であった漁連合併に必要な手続として、合併認可申請が去る8月3日に兵庫県漁業協同組合連合会設立委員会により農林大臣あてになされた。

認可は9月1日付をもってなされるいよいよ名実共に真に漁業者のための団体として（新）兵庫県漁業協同組合連合会がスタートする。

なお、申請書の内容は設立委員会事務局により練られた原案を設立委員会に於て十分検討されたものである。

「合併認可申請書」

このたび、兵庫県漁業協同組合連合会と兵庫県内海漁業協同組合連合会が合併して、兵庫県漁業協同組合連合会を設立することについて、それぞれの総会において議決したので認可を得たく、水産業協同組合法第92条第5項において準用する同法第69条第2項の規定により関係書類を添えて申請いたします。

「認可申請に至るまでの経緯」

ここで三漁連合併の話が具体化されてから、現在にいたるまでの経緯を振り返ってみよう。

S、50、6、17
○三漁連正副会長会
三漁連合併推進方法に関する協議
S・50・7・15
○三漁連合併事務打合せ会
兵庫県漁協等合併推進協議会発足準備協議
S・60・7・22
○第1回兵庫県漁協等合併推進協議会（以下合併協議会とする。）
委員の委嘱及び組織部会、財務部会、専門委員会の設置
S・50・7・30
○第1回専門委員会
合併推進方法及びスケジュール協議
S・50・8・26～27
○合併推進委員による他府県漁連視察及び調査
長崎県漁連、山口県漁連
S・50・9・3
○第2回専門委員会
三漁連業務運営内容調査及び各地区に対する説明会について協議
S・50・9・13
○第3回専門委員会
三漁連運営内容の検討
S・50・9・20
○第4回専門委員会
三漁連運営状況資料及び合併推進に対する専門委員会の意見書の内容、検討協議
S・50・10・6～7
○合併推進委員による他府県漁連視察及び調査
茨城県漁連・千葉県漁連
S・50・10・18
○第5回専門委員会
意見書内容の具体的表現についての協議
S・50・10・20
○合併推進委員による他府県漁連視察調査
北海道漁連・北海道指導漁連
S・50・11・25
○財務・組織合同部会
合併に対する意見書の補完について説明、協議
S・50・12・18
○第1回組織部会
組織等に関する協議及び漁連合併経営収支計画（案）作成協議
S・50・12・19
○第1回財務部会
職員の給与等及び財産評価並びに持分調整等について協議
S・50・12・19
○第6回専門委員会
協議会議事内容の検討及び漁連合併経営収支計画（案）財務問題等の協議
S・51・2・10
○第7回専門委員会
合併経営収支計画の検討及び今後の合併推進方法についての協議
S・51・2・27
○第8回専門委員会
統合漁連の事業運営方針の取りまとめ及び財務持分等に関する協議
S・51・3・8
○第2回財務部会統合漁連の事業運営方針の説明及び財務持分等に関する協議会への答申事項について協議決定
S・51・3・10
○第2回組織部会
統合漁連の事業運営方針の説明及び組織等に関する協議会への答申事項について協議決定
S・51・3・22
兵庫県漁協婦人部連合会より三漁連合併推進方についての要請を受ける。
S・51・4・2
○第3回合併協議会
統合漁連の事業運営方針の決定及び組織財務及び持分等に関する部会の答申審議決定並びに説明会の開催について協議
S・51・4・18
○合併ブロック説明会
淡路地区
S・51・4・19
○合併ブロック説明会
但馬地区
S・51・5・5
○合併ブロック説明会
摂津地区
S・51・5・15
○合併ブロック説明会
家島地区
S・51・5・19
○合併ブロック説明会
瀬戸内海地区
S・51・5・20
○第9回専門委員会
三漁連合併仮契約書案の協議
S・51・6・3
三漁連合併仮契約、調印
S・51・6・5
○但馬漁連臨時総会
合併決議について
S・51・6・8
○県漁連、内海漁連臨時総会
合併決議について
S・51・6・19
○第1回兵庫県漁業協同組合連合会設立委員会（以下設立委員会とする）
合併までの日程、代表委員の選任、事務局の設置
S・51・7・17
○第2回設立委員会
定款、事業計画の審議決定及び役員の選任
S・51・7・17
○財務確認委員会
財務確認方法及び日程の決定
S・51・7・28
○第3回設立委員会
規約及び組織機構についての審議
S・51・8・3
合併認可申請

「認可申請後の設立委員会審議事項」

新連合会の骨格となる。定款、事業計画、組織機構、役員の選任等を策定し終った設立委員会は、8月中に2回委員会を持つ。この委員会で骨格の肉付ともいうべき、規約、諸規定について審議する。

「財務確認委員会の設置」

合併契約書第4条に基づきさる7月17日に財務確認委員会が設置された。

構成メンバーは、三漁連の監事で合併までに財務内容を相互に確認する。

8月6日～7日
但馬漁連で第二回目財務確認委員会開かれる。

目前の利害を超えて〝系統全利用を〟

実情を知らずして系統運動の発展はありえない

福良漁協（淡路）―津居山港漁協（但馬）を訪問

気温が三〇度を越えるウダるような暑さのなか、淡路と但馬の漁協役員が交流会を開き、共販事業、信用、購買、販売、利用事業等に熱心な意見交換が行われた。

これは去る八月六日、七日の両日、三原郡南淡町・福良漁業協同組合の酒部龍三組合長ほか役員十八名が「系統の看板である県漁連が九月一日付で合併し、生れ変ることをふまえて、内海側の漁協として但馬の仲間の実情を知らずして系統運動の発展はあり得ない」として、但馬の玄関口・津居山漁業協同組合（木下清組合長、正組合員三八九人）を訪問したもので、県下漁業協同組合のなかでは、先進地視察と称する研修旅行例は多々あるが、今回のように、両組合の役員自からが自己の担当部門の実情を説明し、相互の意見交換の中で、自分達の漁協のあり方に自信をもちまた反省もするという成果と共に、対外的に自分の意見を表現するという一面にも良効果を得る等、初めての試みのものである。

この交流会では、酒部（福良）、木下（津居山）両組合長がリード役として問題点を提議し、両組合の担当理事が情況を説明する。これに他の役員が質問、意見を投げかけるというなかで、特に共販問題には非常に熱心な討論があった。

（討論内容…）

兵庫県漁政懇話会

農林部長を囲む会

―本県水産業の当面する諸問題について―

去る七月一日、本県の水産系統諸団体が「兵庫県漁政懇話会」を結成した。これは最近の水産をとりまく厳しい諸情勢に対応して、業界の意見を集約し、政治や行政に漁民の声を反映させようというのがねらいである。県漁連の漁政活動を一層強化するものであり、今後この懇話会を中心に各団体、全漁民の参加を得て活発な運動を展開したいと考えている。その第一回として本年四月着任された小野賢一農林部長を囲む会を去る七月五日開催し、約三時間、熱心な質疑や意見の交換が行われたので以下その概要をお知らせする。

漁業経営の安定方策について（西上信漁連会長、山田県漁連会長、天野信漁連専務）

漁業再建整備特別措置法の施行に伴う漁業経営維持安定資金及び燃油特別対策資金の利子補給に関し先般水産庁より本県枠の内示（安定資金八・一億円、燃油資金九億円）があったが、この枠では到底本県内の需要は充し得ない。県として追加枠の確保について格段の尽力を願いたい。またこれに関連して県漁業信用基金協会への県出資の増額も措置されたい。なお、漁業近代化資金枠（現在二三・五億円）は余りにも過少であり農業関係（現在一〇〇億円）に比べ見劣りがする普処されたい。

答（小野農林部長、吉岡食料局長、福井水産課長）

県の水産行政に系統諸団体はじめ水産関係者から多くの協力があることに謝意を表する。経営安定資金枠の増大については、本県が根をせぬよう努力したい。また利子補給及び協会出資の増額等については、内部的にも話しを進めている。農業近代化資金枠は、ここ三年間据置きであり、全般的にみて水産とのバランスは保たれている。食料の安定供給という観点から共に重視していることを力説したい。

（計）この会議後、直ちに県及び業界相共に中央機関に働きかけた結果、経営安定資金は、八・一億円が九億円に、燃油資金九億円は、一〇・八億円にそれぞれ増額されることになった。関係者の努力によって成果を挙げることができた。

漁協系統組織の指導及び助成の強化について（酒部県漁連副会長、河村県漁連副会長、森内海漁連副会長、山田県漁連会長、坂口信漁連副会長ほか）

九月からの三漁連合併は、全国的にも極めて注目されているケースである。内海、但馬それぞれ生産基盤、経営形態等の異る実態であり、また経済事業と指導事業が全く別個に進められてきた経緯もあり、合併した新漁連の事業が軌道に乗るまでには、相当の問題と困難性がある。関係役職員一丸となって自主的努力を傾注する覚悟であるが、県当局としても当分の間、格別の指導と援助を願いたい。

単協や漁連を支える原動力は背年部や婦人部の活動に負うところが大きいが、これらに対する指導、育成はこれまで低調であった。普及員制度を活用して強化すべきである。また多くの水産施策即ち、金融、共済、構造改善、沿岸振興、漁港整備等々については、零細漁協の合併、系統利用の強化などと吻合させるよう運用すべきである。漁業取締船は、本県には内海に一隻だけであるが隣接の徳島県、和歌山県では、それぞれ三隻を保有し活動している。紀伊水道、大阪湾、播磨灘をもつ本県としてはもっと強化すべきでないか。

答（小野部長、吉岡局長、福井課長）

新漁連の強化は当然であり実効ある努力をしたい。例えば、水産課の中にプロジェクトチームをつくり具体策を打ち出すなど積極的に取組みたい。農協中央会には県から相当の指導費助成を行っているが新漁連にもこの中央会的な役割を果してもらうため明年度予算で頑張りたい。普及員の単独駐在については、三年前より農業関係もすべて普及所に集中している。市町の嘱託普及員も含めて統合漁連の指導強化に役立つよう普及員教育にも力を入れたい。

県の開発プロジェクトと農林部の対応について（山田県漁連会長、高浜内海漁連副会長、酒部県漁連副会長ほか）

姫路LNG基地の建設、神鋼第三号高炉の建設、大鳴門架橋の着工或は明石海峡大橋の架橋問題、淡路の緑の廻廊計画、更には関西三号高炉建設に伴う温排水問題は、さきの県議会で大きな論議を呼んでいるが、県の温排水調査委員会の設置についても具体的進展がなく県漁連としても納得難い点がある。

またLNG基地建設についても危険物搭載船が明石海峡などを通過する際における漁業操業事故防止等について補償を担当している企業庁が考えているのか。莫大な補償金の系統利用などについてもどの程度指導されているのか。或は去る七月二日の大鳴門架橋起工式をねらった海員組合のストで淡路の魚が輸送できない事等、主じている等これら数々のヒズミや問題点が提起されているが、これを漁民の立場で受けとめ総合的に対応策を講ずるのは農林部以外にない。新部長の信念を承り、その敏腕に期待したい。

答（小野部長、吉岡局長、福井課長）

農林部以外が窓口となっている事業については、今まで若干手抜かりの点もあったと思うが少くとも県として約束したことについては実行するようにしたい。

新聞紙上に発表された県の「おのころ島緑の廻廊計画」は表現が不十分であるが実質的には水産振興も相当に盛り込まれている。漁業補償金の有効利用については、よく指導したい。

PCB対策について（神頭内海漁連会長、河村県漁連副会長）

昭和四十七年から四十八年にかけてのPCB騒ぎについては臨時県議会を開催するなど県としても本格的に取組まれ、特に農林部として大変ご苦労を煩したことは深謝する。

しかし、その後関係者の努力にもかかわらずまた高砂西港のヘドロ浚渫をもってしても未だ漁業規制区域の解除についてはっきりした見通しがでていない。このしろの如きは多獲される高砂西港の埋立は本年一月に終った。この地先の魚について現在分析中で結果がでれば対策について相談したい。このしろ流通問題については先月県漁連とともに東京、横浜市場に販路開拓に行ったが規制区域に相当誤解があることが判ったので早速翌日水産庁にかけ合った結果、森川漁場保全課長が東京都と神奈川県に対し公文書で積極的に働きかけていただいた。

答（吉岡局長、福井課長、伊藤参事）

淡路南方のこのしろは一PPM以下でありこの辺から出荷してイメージアップを図って行く必要があろう。PCB規制区域の魚は「獲っては不可、食べても不可」というものでないので無下に遊漁者を取締ることもできにくい。立札をしても遊漁者が取り外してしまうおそれがある。

沿岸場漁整備開発促進法について（森内海漁連副会長、酒部県漁連副会長、西上信漁連会長ほか）

国際海洋法会議以降の動向からして領海特に沿岸漁場は再び重要視されなければならなくなってきた。

本県では内海、日本海とも魚礁の適地も数多くあり、調査機能を強化して水産資源の確保に抜本的な対策を講ずべきである。国は、コンクリート製魚礁を奨めているが、この魚礁はフジツボが附着し海藻類が生えず魚がつきにくい。

永年の経験から廃船、天然岩石による魚礁の方が効果があることが立証されている。また広いグランド的な漁場造成（砂や礫を敷く。）も効果が大きいように考える。日本海でもコンクリート魚礁より沈船の方が速効性がある。廃船魚礁を補助対象にするよう国に働きかけるべきである。

答（福井課長、伊藤参事）

資源培養型漁場の造成が基本方針である。五十一年度は沿岸振興予算を振り替えたものであるが五十二年度以降どのような方式をとるか国、県とも方法論を検討中である。日本海は根付資源の培養と沖合通過の魚群を留める魚礁方式の二つを検討中である。やり方等については今後話し合いたい。

なお、魚礁設置費の対税関係で税務当局は、耐用年数を五十年とした繰延資産として計上し課税対象にするといっているがこれについて対処されたい。

当面の問題について

なお、魚礁設置費の対税関係で税務当局は、耐用年数を五十年とした繰延資産として計上し課税対象にするといっているがこれについて対処されたい。

その他、後継者の育成対策について高浜内海漁連副会長、林崎漁協の例或は千葉県における対策事業（三、〇〇〇万円）の事例などをあげて県の真剣な対策を要望した。

会議の概要は以上のとおりであったが、司会は水産公害対策基金の森本専務理事が行い、終始熱心な意見交換がなされ相互に極めて意義深い会合であったことを確認し今後機会を設けて第二、第三回の会議を開催することになった。

若い力で新しい漁業生産活動の展開を

摂津・播磨地区漁協青壮年部連合会設立総会開催される

かねてからの課題であった県青連結成への第二段として、摂津・播磨地区漁協青壮年部連合会設立総会が去る7月24日、播磨町内海漁連の流通センターにおいて開催された。これは昨年3月の淡路地区漁協青壮年部連合会結成に続くものであり、県青連結成の中で重大な意義をもったものとして注目されている。なお、当日は、摂津・播磨地区漁協青壮年部代表60名をはじめとして、県水産課、県漁連、系統諸団体等、15団体17名の列席があった。

はじめに、設立委員会代表小南慶三氏（高砂漁協）より、摂津・播磨地区漁青連結成にあたり「我々、漁協青壮年部が一致団結し、緊迫した状況をのり越え、新たな漁業と明るい漁村づくりにとり組んでゆこう」と力強く開会の挨拶がなされた。漁青連は、漁協協力組織の重要な地位を占めるものであり、老齢化の進む漁村にあっては、新たな息吹きを吸い込み、同時に旧来の因習を打ち破り、社会の動向を見極め新時代の要請に即応した漁業基盤づくりを目的としたものであり、それには青年部各員が学習と団結でもって、より一層充実した成長をなし遂げなければならない。

開会に続き県を代表して、井沢水産試験場長より「我々水産人として、我々漁協青壮年部が一致団結し、緊迫した状況をのり越え、新たな漁業と明るい漁村づくりにとり組んでゆこう」と力強く開会の挨拶がなされた。漁青連は、漁協協力組織の重要な地位を占めるものであり、老齢化の進む漁村にあっては、新たな息吹きを吸い込み、同時に旧来の因習を打ち破り、社会の動向を見極め新時代の要請に即応した漁業基盤づくりを目的としたものであり、それには青年部各員が学習と団結でもって、より一層充実した成長をなし遂げなければならない。

開会に続き県を代表して、井沢水産試験場長より「我々水産人として、漁青連の若い力に期待するところが大である。若者の特権である〝実践〟を大いに活用して、きびしい状況にある沿岸漁業を発展させてほしい」との要望をこめた挨拶がなされた。県漁連副会長、河村秀治氏よりも「県漁連育成事業の一環である摂播地区漁青連が結成されたことは、非常に嬉ばしいことである。総力を結集して意義ある漁青連をつくられるよう希望している。」また、播磨漁友会長、神頭宇市氏より「沿岸漁業の振興は国民的課題である。魚を獲るだけでなく、社会の動きにマッチした系統組織人として活躍されたい。」また、県漁婦連副会長来田てる子さんより「漁協青壮年部が団結し、若いエネルギーを結集し、漁業振興に貢献してこそ将来の明るい漁村がつくられることを確信する。」との挨拶が述べられた。

来賓挨拶に続き議案審議に入り、連合会規約、昭和51年度事業画が慎重審議されたのち、万場一致で可決された。

最後に役員選任につうり左記の役員が万場一致で選任された。

副会長　原田正夫　神戸市西部
同　隅谷　敏　林崎
同　中川　清　家島
同　隅谷　秀夫　姫路連合青年部
同　讃岐良彦　赤穂
理事　信川勝次　神戸市西部
同　戎井宗男　明石浦
同　神足和見　林崎
同　高橋仁三男　東二見
同　橘敏太郎　東二見
同　宮下兵治　高砂
同　高谷　保　伊保
同　北村久雄　家島
同　大西武男　姫路連合青年部
同　小野敏和　赤穂
監事　藤田幹男　明石浦
同　三浦　寛　伊保
議事終了後、瀬戸内海栽培漁業協会提供による「ワタリガニの海」「タイの海」の映画が放映され、それに見いるまなざしは、真剣そのものであった。最後に〝きびしい状況を切りぬけてゆくためにも、明日の沿岸漁業が漁青連の双肩にかかっていることを確認して、全員が〝カンパイ〟して総会は閉じられた。

次のとおりである。常者は、

県漁連　松井、酒部各副会長
信漁連　西上会長、坂口副会長、天野専務理事
内海漁連　神頭会長、森、高浜各副会長
但馬漁連　安達副会長
共済組合　樫本副組合長、岸専務理事
基金協会　藤原参事
公害基金　森本専務理事
本間事務局長
内海漁船保険組合　調副組合長、浅井専務理事

福良漁協（淡路）―津居山漁港協（但馬）を訪問

（一面より続く）

一例を挙げれば、現在内海側の漁協のなかで前進的経営体形にある福良の実情でも、共販率は九〇％を下廻り、代金決済は一週間〆の木曜日振替、値建てのために仲買の立場を強くしており、その結果資金援助に漁協が一役を買うというなかで、津居山の場合は共販率は一〇〇％、自家消費分もままならぬと厳しく、代金決済は一ケ月〆の二日後支払。十五人の仲買人行商人55人も年間百万円以上の買い上げ者に限られ、十日〆の二〇日現金払で一日でも支払いが遅れたら即売止めという約定書が幅をきかしている。

このあたりは現在の内海側漁協はすべて反省する一面がある。水揚代金の決済が一週間毎と一ケ月毎の〆では、事務的にも繁雑で無駄な時間が多くコスト高になる。さらにどこの組合でも悩みは共販率の悪いこと、福良はまだまだ上の部類で殆んどの場合、鮮魚八〇％以下、のり九十％前後というのが普通であり、内海側にはこの共販すら行っていない組合が相当ある。

これは系統に生きる者すべての自覚の低さがあろうが、組合員が漁業協同組合を通さず、〝己が利欲にだけ〟を考えるなら協同組合という組織は無意味であり、存立する理由がない。

漁協が真に漁業者の協同の意志で存在するなら、金を借りるとき……補償金をとる時……だけに利用することは不心得えであり、それをまた、当然と考える役職員なり組合長がいることが今日の漁協経営基盤を一層弱体にしている。

共販にしても仲買人は〝買ってやる〟、漁業者は〝買ってもらう〟という感覚が漁業の存在価値を低くしているようで、これからの漁協は優れた仲買人を自分達の手で育てることも必要であり、また県漁連なり漁協自身が入札に加わることが魚価安定のために良策であろうという交流会の意見もある。

内海には殆んどみられない加工場の運営についても津居山漁協の加工部が買い上げすることに仲買人からの苦情もあるが、しかし時代の流れにより漁船の大型化が進むにつれ、底曳漁ではハタハタ等が大量に水揚げされているが、加工場をもたない仲買が敬遠するため調整捕獲しても処理できないため、組合加工部が買い上げざるを得ない。この場合魚を高く買うように努力するため加工部は赤字になるが、他の魚価を引きあげることで全体的に収支を合わせるという状況で、両組合の交流会の意見からみれば、今後新設なる漁連の最大の課題は鮮魚の流通販売にどう取組むか。仲買関係との調整をいかに克服し、漁民の立場でどこまで魚価の安定を期するかが漁業者の基本願望であり、これに応えることが漁連の義務であるとされている。

交流会での話題は市場問題につづき信用事業面でも意見交換があったが、ここでも仲買人に対する貸付、仲買人の経営安定等が協議の中心となっている。

また、共済事業の浸透について県共済組合岸専務の話をもとに、普及の必要性を相互に確認した。

このほか組合で整備されている各種規程をはじめ、職務分担についても熱心な討論が行われる等、交流会は当初の予定時間を一時間半を延長する程に、終始真剣な協議が行われていた。

今回の福良、津居山両村協の初めての試みである役員交流会について酒澤、木下両組合長は、フリートーキング方式での実施であるが両組合役員とも、組合の規模の違いこそあれ組合を支える幹部としての自覚と責任の重大さを再確認したという期待以上の成果を得たとしている。

県漁連としてもこの企画に対し、単に内海・但馬の漁協役員交流会というだけでなく、役員の資質上を向図り名誉職というイメージを一掃し真に魚協運営の指導者を養成する意味から、今後はこの種の企画を前向きに推進する必要があるとしている。

マイワシの好漁に想う

県水試　浜田

今年に入って太平洋南部沿岸や日本海西部沿岸でマイワシの好漁が目立ち、しばしば新聞やテレビで報道されてさた。ここ数年、兵庫県の内海側でも年を追って徐々にではあるが漁獲量が増加している。

日本の漁業生産において大正年代から昭和10年代にかけては、北海道のニシンと本州周辺のマイワシは、近年とは需要の強さや漁獲技術においては大きな差があるとしても、それらの漁獲量は伯仲し、双璧ともいえる多獲漁であった（第一図）。

しかし、昭和二十年代以降は両種とも一方的な減少の一途をたどり、昭和四〇年代のマイワシ資源は極端に縮少したものとみられていた。日本周辺のマイワシ資源の源といえる海域は能登半島、九州西岸、足摺岬および房総半島周辺の四集団に大別され、昭和一〇年代前後にはこれら四水域における各資源が急激に増大してそれぞれ日本周辺に拡大されたものであることは、長年にわたる国立七海区水産研究所や関係水試の綜合的調査研究の結果明らかにされている1）。

それら発生源のうち、瀬戸内海東部へ来遊するマイナイワシは、九州西岸、足摺岬集団に属しており、昭和二〇年代以降のそれら集団の縮少とは逆に、昭和二〇年代後半から三〇年代にかけては沿岸性のカタクチイワシが経年的に増大した。

兵庫県内海で漁獲されるイワシ類は主としてマイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシは前二者より量的に極めて少い。第二図に示すように、昭和二〇年代まではマイワシが多獲される年代とカタクチイワシが多獲される年代が七～九年の周期で交替していたが、昭和二〇年代後半から四〇年代にかけてはカタクチイワシが圧倒的に優先してきた。もともとマイワシは、カタクチイワシより沖合性であるため瀬戸内海へは一年に満たない当才魚の来遊が大半を占めている。したがって、前記二集団の年毎の発生量の増大、減少によって来遊量が左右されている。

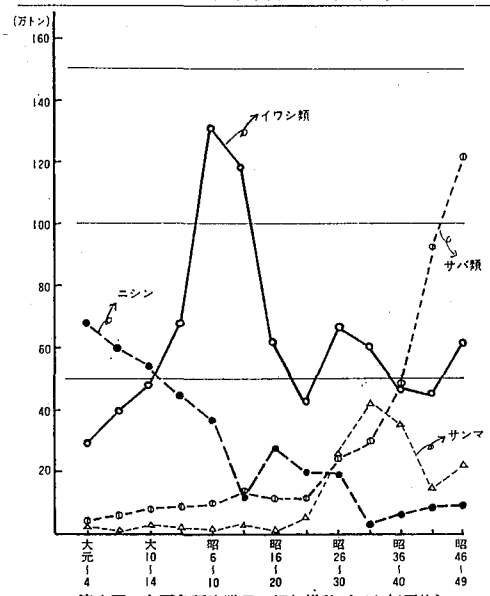
マイワシが多獲された年代の兵庫県下内海におけるマイワシとカタクチイワシの漁獲割合をみると、平均的に大阪では七：三、播磨灘では四：六で2）、回遊経路からしても大阪湾でのマイワシ漁獲量が多かったといえる。

はたしてマイワシは資源的に増大しつつあるのだろうか。最近一一ケ年（昭和三九～四九年）間の種両の漁獲状況3、4）を昭和四五年を基準（一〇〇）として、それぞれ生産指数で示したのが第三図である。日本全国の場合でも兵庫県内海の場合でも、マイワシとカタクチイワシの増減傾向はほぼ一致するといえる。すなわち、マイワシの生産指数は昭和四二年以後増加し、特に昭和四六年からは急激に増大しつつある。これに反し、カタクチイワシの生産指数はマイワシ程大きな変動を示していないが、昭和四五年以降はやや減少の傾向を示しつつあるといえる。また、兵庫県の両種の指数は全国のそれより変動が大きく、特にマイワシの変動は極端に大きい。これは前述のように兵庫県下内海が外海マイワシ資源の増大、縮少の影響をその末端において享受しているためである。

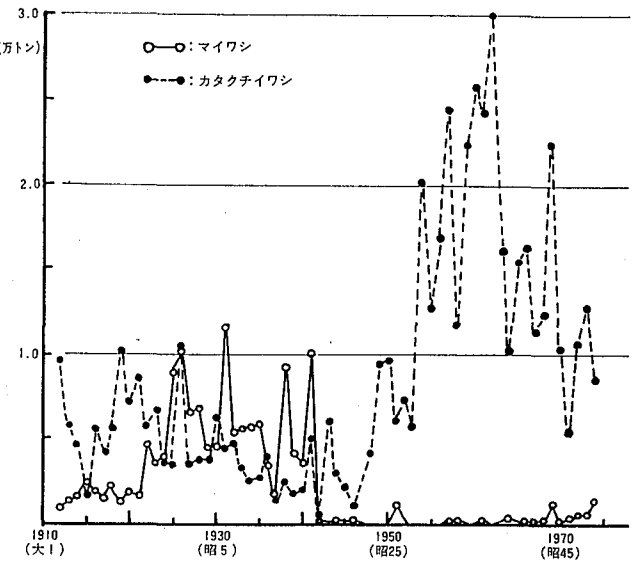
しかし、いづれにしても兵庫県のみならず、全国的にもマイワシの生産指数が増大傾向にあることは、経年的な両種に対する需要の変化（食嗜好の減少、養殖飼料の増大など）があるとしても、あるいは往年の水準に達するか否かは不明としても、近年の日本周辺におけるマイワシ資源の増加を示唆するものと思われる。

近年、これら多獲魚の鮮魚と、の食嗜好は極端に低下しているにもかかわらず、一方では近い将来の食糧難が警告されている。

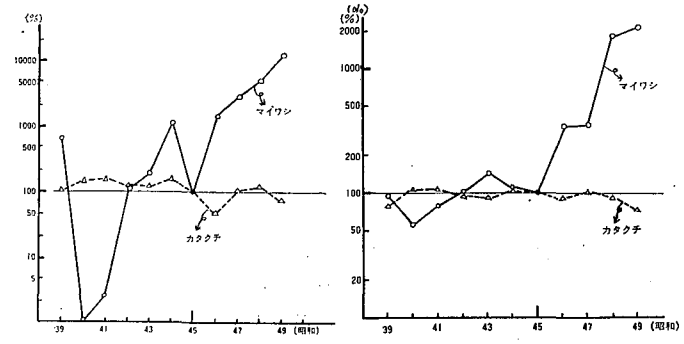
このような多獲魚の長期の変動は、食う食われる関係において、それらが生息する海域での魚類群衆構造に大きな影響をもっていることは見逃せないし、一方では、魚食性民族である日本人として、多獲魚利用に対する認識を更めて考える秋であろう。



第1図　主要魚種漁獲量の経年推移（五ケ年平均）



第2図　兵庫県下内海におけるイワシ類漁獲量推移



（兵庫県内海生産指数）　（全国生産指数）

第3図　マイワシ・カタクチイワシ生産指数の変化　昭和45年基準（100）

参考文献

一）水産庁：沿岸重要資源協同研究経過報告（一九五五年）

二）鶴田三郎：水研誌（一九三七年）

三）農林省：漁業・養殖業生産統計年報（一九七六年）

四）兵庫県農林水産統計情報事務所：兵庫県農林水産統計年報（一九五三～一九七五年）。

6月の漁況と海況

⊙海　況

※播磨灘……3～4日実施した観測結果による水温分布は東部では表層18.0°～18.6°C，中層17.8°～18.0°C，底層1.80°～18.2°Cを示し平年比較で表，底層＋0.7°C，中層＋0.3°C高目。北西部では表層 18.5°～18.7°C，中層16.7°～17.1°C，底層16.0°～16.7°Cを示し平年比較で表・中層－0.2°～－0.5°C低目，底層は逆に＋1.1°C高目。中央部では表層 18.5°～19.9°C，中～底層16.0°～17.3°C，南西部では表層18.6°～19.2°C，中～底層16.2°～17.5°Cを示し表～中層が＋0.5°＋0.8°C，底層で＋ 2.0°Cと全域を通じて前月同様底層での高目が目立っている。

※大阪湾西部（淡路島寄り）……15日のの調査によると，北部では各層とも19.3°Cを示し表層はほぼ平年並，中層＋0.3°C，底層＋0.7°C高目。南部では表層 19.3°～19.4°C，中～底層 18.9°～19.3°Cを示し表層－0.8°C，中層－0.3°C低目，低層はほぼ平年並に経過している。

※紀伊水道北部……15日の調査結果では東部では表層20.3°C，中層19.0°C台，底層18.5°C内外を示し平年比較で表，中層－1.0°C，底層－1.7°C低目。中部では表層20.0°C内外，中層19.0°～19.4°C，底層17.7°～18.3°Cを示し表層－0.5°C，中～底層－1.0°C低目。西部では各層とも19.1°Cを示し平年並からやや高目を示したが中～東部では前月に続いて1.0°～1.7°Cの低目が持続している。

⊙漁　況（概況）

明石瀬戸及びその東・西海域では 小型底曳網で メイタカレイ，アイナメ，タコ，アナゴ，エビ，アコオ，クルマエビ。一本釣でスヽキ，カサゴ。曳縄でマルアジ，サバ，延縄でアナゴ，メバル，グチ，キス，ベラ，カサゴ。刺網でキス，アマカレイ，アイナメ，カサゴ，ブンチン漕でイシカレイ，オコゼ，タコ。船曳航でカタクチシラスなど。友ケ島水道及びその南，北海域では小型底曳網でマダイ，エビ類，アナゴ，キス，グチ，ウシノシタ。刺網でキス，ベラ，アマカレイ，延縄でハモ，キス，カサゴ，アナゴ。一本釣でマダイ，スヽキ，マアジ。突棒でタコ，アワビ，サザエなど。沼島周辺及びその南，西海域では小型底曳網で エビ類，ハモ，ウシノシタ，キス，アナゴ。一本釣でヤアジ。延縄でハモ。曳縄でタチウオ。刺網アマカレイ，メイタカレイ，チヌ，グチ，クルマエビ，イセエビ，スヽキ，サザエ。突棒でサザエ，タコ，アワビ。八田網でアジ類など。鳴門海峡及びその南，北海域で は小型底曳網で エビ類，カニ類，ウシノシタ，シヤコ，イボダイ，キス，ウシノシタ。一本釣でキス，タコ，タイ，チヌ，スヽキ。曳縄でタチウオ。刺網でキス，チヌ，ベラ，コチ，アイナメなど。播磨灘中部では流し刺網でサワラ，サゴシ，マナカツオ，マルアジ。北部では 小型底曳網で エビ類，カレイ類，シヤコ，ウシノシタ，キス，イカ。船曳網でイカナゴなどとなっている。

⊙各　地（註・以下は1日1隻当りの平均漁獲量，@は1キロ当りの平均単価円，何隻は操業隻数）。

明石浦……小型底曳網メイタカレイ10キロ@2,750，アイナメ4キロ@1,800，マダコ17キロ@㊋800㊎350，アナゴ8キロ@750，エビ10キロ@ 1,000，クルマエビ1キロ@ 5,000，25隻（大阪湾北西部夜昼曳）。メイタカレイ7キロ@2,750，オコゼ3キロ@2,500，マダコ20キロ@350～800，アナゴ5キロ@750，小メイタカレイ20キロ@300，45隻（昼曳15隻，夜曳30隻）。アコオ5キロ@4,000～4,500，アイナメ10キロ@1,350，6隻（明石海峡昼曳）。一本釣スヽキ1～2尾（目廻2K内外）@3,500～4,000。曳縄マルアジ50～60尾1尾350（目廻280g），サバ30～40尾1尾55，合計60隻。延縄アナゴ40キロ@825（夜）カサゴ30キロ@1,650，グチ50キロ @250，キス5キロ@2,000（昼）2隻。ブンチン漕イシカレイ10キロ @㊋2,500㊎1,500，オコゼ5キロ@2,500，マダコ4キロ@650，6隻。

※岩　屋……船曳網カタクチシラス500～900キロ@130～450，31統。一本釣ススキ6キロ@2,750，カサゴ5キロ@ 1,750，30隻。曳縄マルアジ40～80尾1尾200～230，70隻。延縄ベラ30キロ@1,200，20隻（昼）。カサゴ17キロ@1,550アナゴ10キロ@600，2隻（夜）。刺網キス12キロ@1,750，8隻。カレイ15キロ@2,500，アイナメ・カサゴ10キロ@1,500，3隻。タコ壺縄30キロ@1,200，3隻

※由　良……小型底曳網マダイ23キロ@3,400，5隻シラサエビ18キロ@1,600，アナゴ10キロ@500，キス4キロ@900，その他21キロ@300,70隻。刺網キス22キロ@1,000，10隻。ベラ13キロ@1,100，アマカレイ10キロ @1,600，その他11キロ @700，30隻。延縄ハモ21キロ @ 3,600，5隻。キス14キロ @1,700，2隻。カサゴ16キロ@1,200，アナゴ7キロ @500，5隻。一本釣マダイ5キロ@3,500，50隻。スヽキ5キロ@2,300，20隻。アジ12キロ@1,000，40隻。突棒タコ4キロ@900，アワビ12キロ @1,500，サザエ7キロ@700，10隻。

※沼　島……小型底曳網ハモ3キロ@2,000，カワツエビ（活）14キロ@1,350，雑エビ（活）15キロ @550，雑エビ40キロ（死）@220，アナゴ，キス15キロ @600，アカウシノシタ2キロ@850，40隻。一本釣マアジ40キロ @700，65隻。延縄ハモ20キロ@3,800，3隻。曳縄タチウオ20キロ @300～600，5隻。磯刺網アマカレイ1キロ@1,100，メイタカレイ2キロ@1,600，チヌ2キロ@900，クルマエビ2キロ@6,000，22隻。突棒サザエ5キロ@700，タコ2キロ@750，アワビ1キロ@㊋ 2,700㊎1,500隻，6隻。八田網アジ500キロ@420，1統。

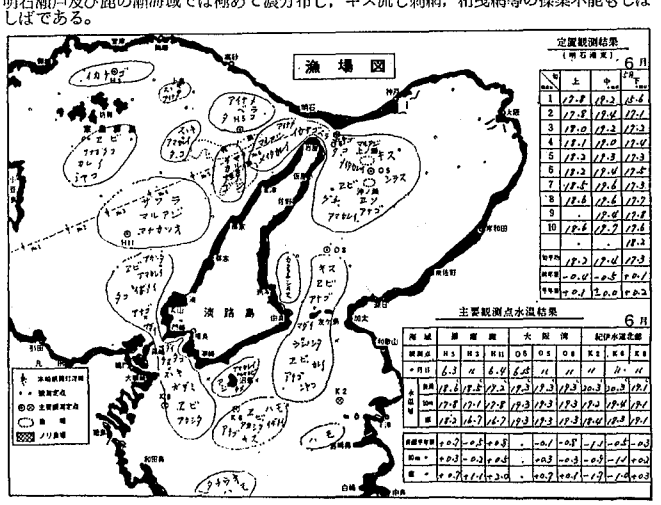
※福　良……小型底曳網シラサエビ2キロ@4,400，カワツエビ7キロ@1,800，中エビ15キロ@700，小エビ35キロ@200，ガザミ1キロ @1,400，雑カニ3キロ@900，ウシノシタ10キロ@800，27隻。一本釣キス5キロ@1,560，16隻。タコ8キロ@960，31隻。曳縄タチウオ45キロ@530（目廻400g），73隻。撒餌釣マダイ（大）5キロ@2,980，（小）5キロ@2,590，チヌ6キロ@970，スヽキ8キロ@2,600，ヒラメ2キロ@2,500，サバ80キロ@200，8隻（2隻で1組）。磯刺網チヌ3キロ@950，ベラ（青）8キロ@1,000（赤）18キロ@700，コチ2キロ @800，マイナメ2キロ@1,000，5隻。タコ壺縄100キロ@1,070，3隻。

※五色島飼（支所）……流し刺網サワラ（上旬）13尾（目廻 3.47キロ）@958，26隻。（中旬）12尾（目廻2.98キロ）@ 978，24隻。（下旬）7尾（目廻3.05キロ）@975，18隻。好漁日上旬（6月6日）最高78尾，最低17尾平均39尾。中旬（6月20日）最高29尾最低6尾平均16尾。

⊙本月の特記事項

※本年はメイタカレイの発生が極めて播磨灘東部海域ではその結果とみられる幼魚の出現が5月頃より顕著であったが本月に入り同海域で操業中の小型底曳網（夜曳）に新メイタ（当才魚）1日1隻当り）40～50キロの入網を見るようになりこのような現象は近年稀なことである。

※前月に引続き県下内海全域に一昨年を上廻るウマズラハギの大群が来遊停滞しとくに明石瀬戸及び鹿の瀬海域では極めて濃分布し，キス流し刺網，桁曳網等の操業不能もしばしばである。



魚礁

その二

なぜ魚が集まるか I

水試　堺

人工魚礁になぜ魚が集まるのだろう。この答えはやさしいようで，なかなかやっかいな問題である。魚礁に魚が集まる理由はいろいろとあり，また魚によって魚礁に対する反応もまちまちである。そして，この問題を解明することが，人工魚礁をより効果的に設置，または改良するための重要なポイントとなる。そこで主な集魚要因をわかりやすく説明してみよう。

好奇心　海岸で小さな魚の群を見つけ，その魚群の真中に小さな石をポトン！と落してみると，サッ!!と散って逃げてしまう場合と一旦はバッと散るが次の瞬間急に後戻りして石の落ちた所に再び集まる場合とがあるのを経験した人が多いだろう。後者の例は好奇心の強い魚であり，幼稚魚にその傾向が強い。魚礁を投入して翌日潜水してみるともう数尾の魚を発見することができる。イシダイの子供，イシダイによく似たオヤビッチャ，クロダイの子供などは特に好奇心が強く投入して二～三時間もすれば，二～三尾連れだって魚礁の周囲を品定めでもするようにに泳ぎまわっているのをよく見かける。

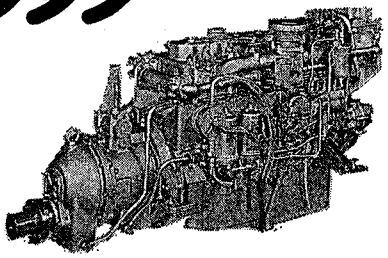
憩いの場　ハイキングで広々とした野原を歩いているとき野原に一本の木があった。つい木のそばで一休みしたくなるのが人情だろう。静かな池の中をのんびりと泳いで池を廻っている鯉が，池の中に立っている棒杭の近くに来たとき，棒杭の方にコースを曲げ，杭の傍でしばらく立止り，また泳ぎ去って行くのをよく見かける。広い海の中を泳いでいる魚にも，魚礁を発見すると，ついて立寄って，しばらく休憩してゆく性質がある。この性質はかなりの種類の魚に共通しているが，アジ・サバ・イワシ・ハマチ類・カマスなどは，その傾向が強い部に属する魚である。

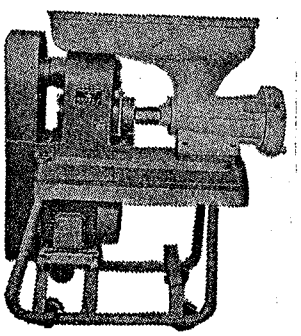
投石魚礁の岩穴に住みついたメバルたち
（五色町洲）

居住性　一人で旅をして旅館に泊る。たまたま同かの部合で会議室のような広い部屋で寝なければならないような事になった。そのような場合，広い部屋の真中で寝るとどうも落ち着かない。部屋の隅に布団を敷いて，どうやら落ち着いたような経験があるだろう。またその反対に，一畳か二畳の狭い部屋でも寝辛いものである。やはり人間は六畳とか八畳ぐらいの部屋が気分的に最適であろう。

同じように，魚にも好きな空間がある。もちろん，魚の種類の大きさによって好みはまちまちである。例えば，アナゴなどは自分の休がやっとはいるような細い管を好むし，メバルなどは直径30㎝から60㎝ぐらいの穴場を好み，スズキなどは1mから1.5mぐらいの広い空間を好むようである。もちろん，大きさによっても差がある。したがって，適当な空間に区切られた魚礁を発見した時，そこを安定した住み家として魚が利用するのである。

ただし，魚礁の中に遣入らない種類，例えばサバやアジなどは関係がない。

いすゞ
マリンエンジン
UM06BBIB
高速への挑戦！
特長
1.小型、軽量、高出力
2.卓越した耐久性、信頼性

神戸いすゞ自動車株式会社　〒658 神戸市東灘区住吉浜町17　TEL(078)811-1171㈹

養魚の調餌と造粒は
コウベヒラガのミートチヨッパーで

養魚用ミートチヨッパーNo.32から No.72まで各種製作しています。
又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。
（御一報次第カタログ贈呈いたします）
ミートチヨッパーとプレート，ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所　神戸市長田区水笠通5番5号　TEL 代表神戸(078)621-1527

漁村における共済保険の未来像

第一号試案発表される

漁業をとりまく内外の諸情勢は非常に厳しく漁業者一人一人がこれほど危機感をいだき、この危機をいかに乗りきるか又、共済・保険が、将来、未来にわたって斯くあるべき構想試案がこの程発表され先月号に続き記載しております。

この構想試案について漁業者はじめ関係各位のご意見ご感想を賜わりたいと存じます。

第五　総合化による強力な補償制度

一、漁協共済の理想とすることは、営漁指導の徹底とそれを基礎においた経営保障のところは、漁協が指導事業として行う営漁指導や生活設計を基礎として個々の組合員に必要とされる危険保障を整理し、その保障のすべてが一回の契約（ワン・ポリシー）で手に入るようにすることである。

これに対し、現状においては、〝漁船保険に加入している漁船に、ノリコーに加入している乗組員が乗って、ぎょさいに加入している漁業生産を行っている〟のが実情であり、漁業者は、それぞれに附加掛金または附加保険料を支払っているわけである。一回で済む加入推進をこの三団体の職員が別々に行っている訳であるから、三倍の手間がかかり三倍の経費がかかることは当然のことである。

共済・保険の一元化は、漁業者の立場に立てば当然の主張であり、事業団体としてはかりに幾つかの障碍があってもそれを乗り越えて漁業者の声の実現に努めなければならない。このことは、低成長経済下において漁業経営を守るために遂行すべき当然の方向でもあるといえる。

二、共済・保険の系統化・一元化が達成された場合において速やかに講ずべきことは、低成長経済下において漁業経営を守るために遂行すべき当然の方向でもあるといえる。

共済・保険の系統化・一元化が達成された場合において速やかに講ずべきことは、漁業者の声の実現に努めなければならない。このことは、低成長経済下において漁業経営を守るために遂行すべき当然の方向でもあるといえる。

二、共済・保険の系統化・一元化が達成された場合において速やかに講ずべきことは、漁業者の声の実現に努めなければならない。このことは、低成長経済下において漁業経営を守るために遂行すべき当然の方向でもあるといえる。

共済・保険の一元化は、漁業者の立場に立てば当然の主張であり、事業団体としてはかりに幾つかの障碍があってもそれを乗り越えて

つけものを見直そう

洲本農業改良普及所　松並　ひろ子

私達日本人の家庭ではつけものがたいへん愛用されています。とくに農漁村では三度三度はももちろん地域によっては、おやつ代りや、お茶うけにさえ食べられています。反面若い人につけものの嫌いな人も多く、つけるのがめんどくさくて嫌いな人、匂いが嫌いな人、生活嫌境で大分違うようです。昔の江戸わずらい、すなわち脚気が近年大分でているようです。暑さに向って疲れの原因の一つはビタミンB不足です。ビタミンB_1が欠乏すると脚気になります。このビタミン$B_1$$B_2$も生野菜より多く含んでいます。つけものは栄養がないという人もありますが、栄養というとすぐにカロリー、蛋白質を多く含む食品のみを考えがちですがその点では、つけものはカロリーや、蛋白質は少いかもしれませんが、別の意味で栄養があるわけです。

すなわち、ビタミンのいろいろ、ミネラル、カルシウムなどすぐれた食品です。たくわんづけ、ぬかみそづけ、長期のはくさいの塩づけにしても、特有の風味と酸味があります。匂いが嫌いだといゆ人は、つけものの手入がわるく、家庭もちのよいおかみさんとは申されません。韓国では昔からつけものがめの多いほど金持？とか、せめて一たるでも我が家の味はこれといった工夫をしていただきたいものです。食欲の衰えがちな真夏に、また濃厚な食事のあとに口にするつけものの味は又格別です。つけものの栄養と役割について考えてみましょう。

(イ)　つけものには一種独特の風味があり、食欲を大いにみると、小型産曳三二%、船びき二四、一%、本釣、十二、四%採貝藻八・九%、刺網六・六%、延なわ四・六%、あとひきなわ、たこつぼ、定置網の順になっている。

総漁獲量は二七、九六七、六トンで前年より二五・九%減少と落ち込んだがこれは船曳の不漁と一昨年より多獲されていたバカ貝漁が不振であったことが大きく影響している。

養殖漁業。

一方養殖漁業では生産額五十七億八千九百三十五万五千円でこのうちノリ養殖生産額が四十八億八千五百一万八千円と断然トップ。生産枚数は県下の四二・四%を占める三億二千万枚で重油禍に見舞われた四十九年に比べ増しており、史上最高の生産を記録、生産額も九八・一%の伸びで、一枚当りの平均単価は十五円二銭、一サク当りの生産枚数は五千五百二十五枚。ワカメ養殖の生産額は五億九千三十四万円で、重油禍で七〇%の被害をうけた四十九年対比では一八三・二%と大巾な伸びを示している。生産量は生ワカメに換算して八、四七三トン四十九年の四倍強となっている。生産内訳をみると、塩漬ワカメが一番多く三六・九%を占めており、ついで生ワカメの三三・七%、灰干しワカメ一六・二%、素干ワカメの一四・二%の順となっている。ハマチ養殖の生産高は三億千四百万円で前年比四・六%の伸びにとどまっている。

漁業従事者の老令化。

なお島内の漁業従事者は四千四百四十九人であるが年令階層別に見ると四十才～四九才が一番多く一千二四八人次に六十才以上の九九七人と四十才以上が六九%も占め三十才未満がわずか一三・六%となっており漁業従事者の老令化現象は相変らずで淡路の将来の漁業に不安を残している。

「昭和50年淡路漁業白書」

〝つくる漁業大幅増〟

昨年の淡路漁業総生産額は百四十億三千五百万円にのぼり、四十九年より三九・三%もふえている。総生産額の五八・八%が漁船漁業の生産額だが、ノリやワカメ、ハマチなど養殖漁業の生産額も四十九年より大きく伸びて四一・二%を占め〝つくる漁業〟も島の漁業経営にすっかり定置して、漁船漁業プラス養殖漁業という周年操業パターンが確立されていることを示している。

ノリ養殖48億8千万円

漁船漁業。

漁船漁業の生産額は八十二億四千六百十六万円で前年比一六・一%の伸びとなった。漁業種類別にみると、船びき網、一本釣、刺網、延なわ、あとひきなわ、たこつぼ、定置網の順になっている。

但馬地区漁協婦人部連合会総会開催

昭和五十一年七月二十四日第十九回通常総会を豊岡市瀬戸日和山遊園内乙姫荘において各単協婦人部役員四十四名が参集開催された。

浜戸会長の開会のあいさつに引続き来賓として臨席の豊岡農林事務所長・信漁連滝本課長・地元津居山漁協組合長よりそれぞれ祝辞を受け、議事に入り昭和五十年度業務報告と決算承認・昭和五十一年度事業計画と予算承認を各審議、原案どおり承認され午前の行事を終了した。昼食後休憩時に津居山漁協の好意による島根県安来節保存会一行による山陰各地民謡を基礎にした舞踊を観賞した。午後但馬教育事務所副所長鼎先生による教育者の立場による家庭内における子供の教育について婦人のため参考となる諸種の事項について講演を拝聴して午後二時三〇分閉会した。

系統の完全利用は組合員の義務

気があってもなくても生存できる半嫌気性菌なのです。ところが、ぬかみそ床をかきまわさないと、酪酸菌というバクテリアが繁殖を始めます。この菌は炭水化物を分解して酪酸という異様な臭気をもった物質をつくり出します。くさくならないように手まめにかきまわし美味しいぬかづけを作って下さい。つけものが余り美味しくて、毎日御飯にお茶づけさらさらでは、偏食になります。あくまでも、つけものは、食事のわき役であることを忘れず、捨てがたい食品であることをあらためて、認識いたしましょう。

(ロ)　カルシウムの補給に役立つ。

さきにも述べましたがビタミンB_1、B_2は生野菜より多く含んでいる。

(ハ)　ビタミンCは煮た野菜より多い。

(ニ)　野菜には繊維が多いので、便秘に役立つ。

(ホ)　米、魚、肉、卵などの蛋白質は、血液を酸性にする傾向がありますが、つけものは反対にアルカリ性にして、私達の血液を中和し弱アルカリ性の、健康状態に導いてくれます。ぬかみそづけのばあいは、つける時間の長いほどB_1量が多くなります。たとえばなすの丸づけでは、一、二時間つけると生の二倍、二四時間では三倍、四八時間では四倍とだんだん増してきます。お老人のある家庭では実にこまめにぬかみそ床をかきまわします。それだけに美味しいつけものを食べさせてくれます。ぬかみそ床に発育する微生物はおもに乳酸菌で、これが酵母などと協力して、ぬかみその酸味や、風味をつくっています。これらの微生物は空

◇…雷と共にやって来た男…◇

――海尾　守――

その朝ちょう度、出勤前の皆があわただしく、オフィスへ、現場へと向う時であった。

突然、雷が鳴り響いた かと思うと、天地を揺り動かす振動を感じた。

次には、市内の信号灯はその機能を停止していた。無理矢理交差点の内に、車を進入させ、ダンプと衝突して、足をフロントガラスから突き出して頭のつぶれた男もいた。

街中が混乱している頃、この地方事務所の一隅でも、珍事件にテンヤワンヤであった。

雷鳴とともに、飛びこんできたその男の名は、ドーセン＝ダメドビッチ氏である。口の悪い事務所の男達は、愛情をこめてあの、愉快な異邦人のことを、どうせいだめだっせ。と叫ぶのであった。

そのダメドビッチは、高名なユーゴスラビアの漁業経済学者であり、おそらくその名を知らぬ人はあるい。彼が何故、私達の事務所を訪問したのか、まづその理由から、説明しよう。世界的な食糧危機が、近い将来、到来するのではないかという思いは、今や、列国の首脳の最大の関心事となっている。東欧諸国とて事情は同じであり、かって農業国のユーゴも、最近では漁業資源の開発に力を入れているのである。ダメドビッチ氏は、世界に冠たる我国水産増養殖技術を視察する為、来日されたのであった。

普通、我々が欧米人を想えば、体は大きく、我々を威圧するような面構えが浮かんでくるが、ダメドビッチ氏は、我々と同じような背格好で、その人がニロニコしているものだから、誰もが親しみを感じるのであった。

最初、そのニコニコした顔で、ドウモ、ドウって部屋に入ってきたときわ、全員彼の方に眼をやったり、たちまち、奇異の感にとらわれたのであった。変なおっさんや繁張していた所員は、どうせだめ、と顔を赤くして、笑い出し、余りのおかしさに、腹の皮がよじれてしまう者も出る始末であった。

会話集と首つぴきで、通訳すると彼の話はこうだ。

自分は、日本の養殖技術は世界一と聞いている。その中でもハマチ養殖は最高に進んだ技術を持っている。兵庫県の家島の名は、我々には憧れの響きを持っている。是非、現地で、小割を見たい。力を貸してほしい。というようなことである。勿論、国際親善、ひいては人類の食糧増産につながるかも知れんぞ、ということで、使命感を燃やした我々は、さっそく家島漁協の中村組合長に連絡を取ったのである。

かくして、ダメドビッチ氏は、海路、家島群島へ。かの地で、どんな珍事件が起ったかは、また別の機会に。

ダメドビッチ氏も自分の誤りに気がついたのか、ポケットから、会話文集を取り出してきて、ジャポンの個所を開いてから、おもむろに、コンニチワ、ワタシワドーセ＝ダメダッセ、トイウモノダ。と言った。

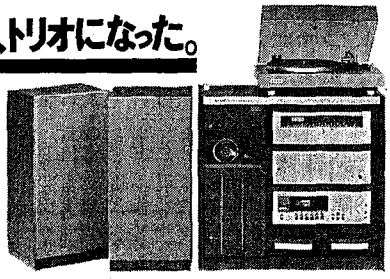
何を言い出すのかと、唖然とした所員は、ダメドビッチ氏は、自分の誤りに気がついたのか、ポケットから、会話文集を取り出してきて、ジャポンの個所を開いてから、おもむろに、コンニチワ、ワタシワドーセ＝ダメダッセ、トイウモノダ。と言った。

なあ、外人みたいな顔しとんでえ、そんなささやきが交されたのも無理になかった。それほど、日本じみた格好であった。

次の言葉が、また皆の度肝を抜いた。

ニーハオ・アローハー・ハイサイウキミソーチ……聞きなれぬ言葉が機関銃弥のように飛び出してくる。所長以下全員唖然。

TRIO
音の専門メーカー　トリオ
硬派のコンポが、トリオになった。
新製品
SYSTEM K7 MKIII
組合せ価格…¥119,600
（ラック、デッキ、ヘッドホーンは別売）
★兄弟機システムK5MKIII、システムK7MKIIIもよろしく
システムKライン
兵庫県内漁業協同組合連合会　資材・共販一課☎078-652-3424(代表)　トリオ商事株式会社●神戸営業所(〒650)神戸市生田区元町通6丁目3番1号☎078-371-1251



燃料報国
一滴の燃料を生かす確かな技術
余裕の出力、曳き力抜群！
●船舶主機用3.0～1800馬力●
●船舶補機用3.5～2900馬力●
ヤンマーディーゼル
●詳しいカタログをお送りします（本社・営業部）まで。
船舶主機
3M15R形
（15PS/1400rpm）
ヤンマーディーゼル株式会社
（本社）大阪市北区茶屋町62（〒530）TEL(06)372-1111(代)
（支店）札幌・東京・名古屋・大阪・高松・広島・福岡